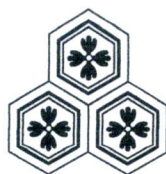


瀬戸内に建つ、400年の歴史

寺とも

かわら版



大利山

徳成寺

とく じょう じ

第229号 2026年 1月 発行責任者／住職・大山健児 坊守・大山ひとみ

お坊さんの処方箋・持っている時間に感謝

新年、明けましておめでとうございます。住職の大山です。今年も、皆さんお元気で徳成寺と寺ともかわら版にお付き合いの程、よろしくお願ひします。

冒頭からで恐縮ですが、詩人・茨木のり子氏の詩に、「死こそ常態、生はいとしき蟹気楼」という一節があります。

長年、葬儀に携わって参りますと、それもそうだなと、頷けるような気がします。蓮如上人は、私たちの身を「白骨となれる身なり」と仰っています。ただ、その身の事実を忘れて生きているだけなのでしょう。なぜなら白骨とならざる身を生きている方は、どこにもいらつしやいません。

だからと言って、自暴自棄になったり、悲観したりしろと言っているのではありません。むしろ持っていた時間や今持つている時間に感謝しようと申し上げたいのです。茨木のり子流に言えば、いとおしむ、慈しむのです。

喜怒哀楽と言った感情は、現代人の誰しもが持つ感情ですが、いとおしんだり、慈しんだりと言った感情は、ほぼ

大山超世の耳を澄ませば

「光って走る」

新年おめでとうございます、副住職です。

年末の特番ラッシュの中で「一番楽しみにしているのはM-1グランプリです。その中でもドンデコルテの漫才が印象的でした。披露されたネタは渡辺さん（ボケ役）が身体に電飾を巻いて自転車走るいわゆる名物おじさんになりたえと言います。何故なら社会とは意味の連続であり、その意味の連続から逸脱したいというネタです。

お茶の間でひとしきり笑った後、ふと仏教っぽいなと感じました。我々の暮らしは常に意味があるか、役に立つか、価値があるかを誇示し続ける終わりのない競争と同義です。そう言う価値の物差しを手放そうとしているの

抱くことがないのではないでしょう。か。それ程感情が乏しくなっているのかもしれませんが、持っている時間をいとおしみ慈しむ一年にして参りませんか。

が仏教で、お釈迦様はいのちとは全てが平等に尊いものであると仰っています。競争の代名詞のようなM-1で放たれた狂気のネタは、実は社会の歪みの核心をついており、一体どうちが正気なのか深く考えさせられました。とは言えまだ私は光って走るわけにはいきませんので、本年も変わらぬお付き合いを頂ければ幸甚に存じます。よろしくお願ひします。



ドンデコルテ
面白かったです